

9時45分 カフェ街路樹にて集合

参加者名簿 次第(本日の流れ確認) 当日の配布資料

役割 講師 2名

受付(2名)(配布資料、参加費200円徴収)

カメラマン(2名) 終わりの挨拶(1名)

会場提供・お茶菓子準備(1名)

参加者の詳細は以下になります。

性別 男性 0人 女性7人

配布資料 「地域交流の場ぽつぽつ 地域の防災活動編」(次第)

「住民の孤立化を防ぐ“地域防災” (プログラム8の資料)」

実際の状況を報告致します。

全体の様子



8回目の開催。今年は最後の開催日。寒い時期になりましたが、カフェ街路樹の中は「あったかい」と参加者から声が聞こえてきます。「くらしの防災」プログラムも、あと残り4回。協議体としての活動が参加者に少しでも伝わるよう引き続き努めていきます。

今回のテーマは『地域の防災活動』になります。配布資料を拝見すると文字が多く、内容も理解が難しいのでは?と思いがちです。講師の方の説明を聞く事で、理解する事が出来る内容と説明をしました。

本日の内容は、こちらになります。

目次	1. 地域防災の想定される活動（現状と今後） ぼつぼつ隊が認識している活動
	2. 東大和市地域防災計画の概要（令和6年素案）
	3. 防災協議会※の防災活動（現状） ※ 防災協議会（南街・桜が丘地域防災協議会）
	4. 東大和市、防災協議会に今後お願いしたい活動 ぼつぼつ隊の思い

<説明の趣旨>

「ぼつぼつ隊 くらしの防災」では、これまで「最小限の自助活動」を中心に説明してきましたが、

- 全住民が同じ意識、同じ行動をとらないと意味が無い（特に火災）
- 被災直後の救援活動やライフラインが停止した場合の長期にわたる救援活動では、やはり共助・公助が重要であることは、言うまでもありません。

とは言うものの、現在共助・公助活動はどのように制度化され、全住民にも共有されているのか、また自助活動についてもどのように全住民に意識と行動を共有してもらうのか、もらおうとしているのが、もやもやしています。

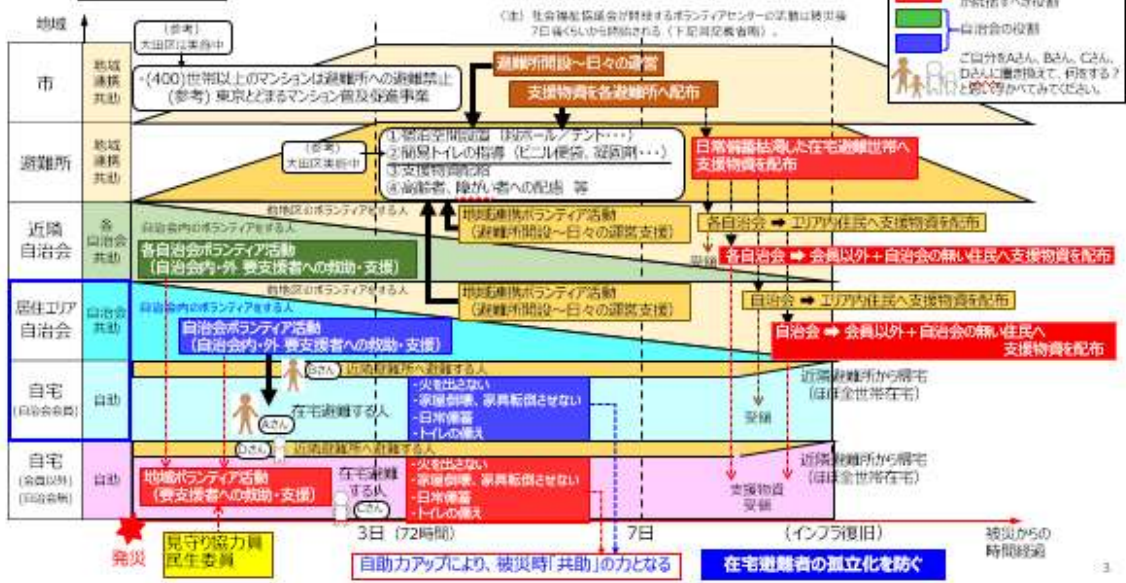
この問題に対してすべて説明することは出来ませんが、現状の活動の内容・狙いをわかる範囲で以下ご説明します。今後追加して欲しい活動とその進め方について各自ご検討いただき、関連団体も含んだ地域防災についての議論のきっかけになればと考えます。

まず、被災後の行動として現在、及び今後すべきことと認識している内容と、「共助・公助に期待する活動」を示します（目次1）。次に東大和市及び、防災協議会の共助・公助活動の概要を知っていただき（目次2, 3）、先に挙げた「共助・公助に期待する活動」とのギャップを今後お願いしたい活動例（目次4）として示します。今後の進め方等については全く白紙です。皆さんのご意見・ご要望などいただけると幸いです。

これまでの講義の内容を少し振り返りつつ、発災後、個人としての行動・自治会の動き・避難所・市の対応について確認していきます。

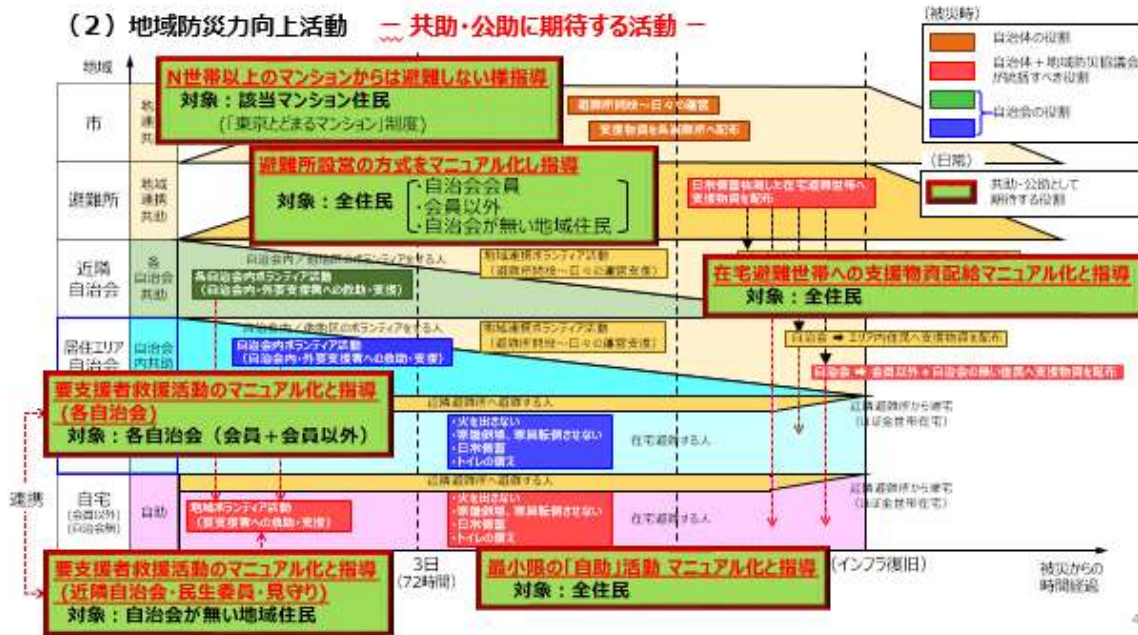
1. 地域防災の想定される活動（現状と今後） ぼつぼつ隊が認識している活動

(1) 日常/被災時 予防/応急行動マップ <現状及び今後実施すべき行動>



細かい記載にはなりますが、被災からの時間経過による自助・共助の想定される行動を表しています。イメージしやすいように、Aさん、Bさん、Cさん、Dさんの目線で各それぞれの実施すべき行動の確認をしました。最小限の「自助」活動しているAさん・Cさん。近隣避難所へ避難するBさん・Dさん。4人の目線で共通する事は自分の身の安全が確認出来たら「共助」の力になる事です。日頃から近所の方とコミュニケーション取れていれば、近所の方々と支援関係になります。「近所」今回のキーワードになりそうな予感がします。

(2) 地域防災力向上活動 **共助・公助に期待する活動**

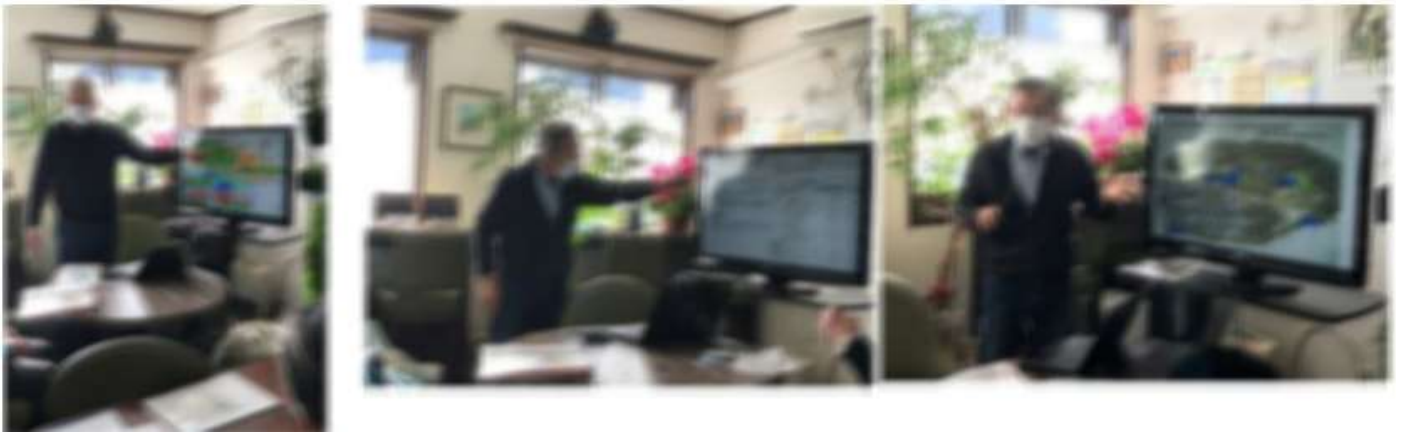


被災したら、分厚いマニュアルを見て行動をする事は出来ません。被災時に確認する程度の手引が必要で、↑には各共助・公助に期待する活動のイメージ化です。対象者に対し、活動・指導が必要になります。マニュアル作成が出来ていない部分を今後、防災協議会にお願いしたいですね。

次に、東大和市地域防災計画として東京都が出している「首都直下地震等による東京の被害想定」で被害予測の説明を頂きました。震災に対し減災目標を確認しました。

- 【東大和市の減災目標】**
2030年度（令和12年度）までに、多摩東部直下地震による人的・物的被害を概ね半減する。
- 【目標1】** 建物の倒壊や地震火災による死者を半減
建物全壊や地震火災等による死者20人を10人にする。
 - 【目標2】** 住宅の倒壊や火災による避難者を半減
住宅の倒壊や火災による避難者10,841人を5,420人にする。
 - 【目標3】** 建物の全壊、地震火災の焼失を半減
ゆれ・液状化等による建物全壊、地震火災による焼失615棟を307棟にする。

規模が大きすぎて難しい表記ですが、自助による市民の「防災力向上」を広げていく事を参加者には伝わればと感じました。



参加者を飽きさせないよう「笑い」ありの講義でした。終始最後まで楽しく過ごせました。講義時間を過ぎても集中力欠く事もなく、参加者は真剣な表情伺えました。

交流会の様子



交流がメインでも良い位になりました。雰囲気より「お話しがしたい」という気持ちが伝わってきます。

参



加者のご厚意で「金柑」を頂きました。参加者の庭で採れたそうです。参加者が参加型になって来ました。「金柑」で話題も膨らみますね。



他協議体への防災講座を出張開催の案内になります。協議体同士の関わりも深まっていきそうですね。

今回のアンケート集計は以下になります。

・今回の講義で印象に残った内容について

地域防災に想定される活動 0名 東大和市地域防災計画 1名

防災協議会の防災活動 0名 防災協議会に今後お願いしたい活動 0名

・次回の地域交流の場 内服編について関心のある内容を教えてください。

内服薬の管理 1名 あったら良い常備薬 2名 お薬手帳の管理 2名

その他 医師にかかっているの、自分で出来るだけやっている。

・自由懇談について

満足 6名 普通 1名 やや不満 0名 不満 0名

→ 案の定、実技があると実感が湧くのかなと感じます。

・今回の企画で感想や印象に残った事を教えてください。

改めて防災に関心が出来た。

回を進めるごとに皆様の熱意を感じ、興味も増してきました。

東大和市の歴史も感じ、楽しかったです。

南街の歴史が、とても興味深かったです。

年内最後の地域交流の場でした。講義の中で「自助」「共助」の内容をお聞きしますが、今回「共助」を「近助(近所)」の考えを教えてくださいました。「イメージしやすい」と実感しました。引き続き、常連の参加者・アンケート結果・交流の場での話題から、参加者の防災意識が高い事を実感しています。くらしの防災プログラムも残り3回。参加者が講師になる予定もあり、更なる有意義な地域交流の場を目指していきます。